

特集 "HOUSE-HK"



ファサード。夕景。



リビング。外部にはデッキ。



特注・製作のキッチンユニット。

このたび、当社にて4件目となる分離発注による住宅、「HOUSE-HK」が完成いたしました。今回のニュースレターでは、この「HOUSE-HK」を特集いたします。

プロジェクトの始まりは、2006年9月8日の一通のメールから。丁寧なメールで、住宅の設計を依頼したいこと、家族構成の概略などが書かれていました。当初の敷地予定地は御所野。希望する区画の候補も決められて、あとは意志を決定される段階まで、進まれていたような気がします。その後、ご都合により敷地の件はいったんリセット。しばらく連絡も途絶え、このまま立ち消えかと思われました。

しかし、その後プロジェクトは復活。長い眠りから醒めて、今度は順調に進むものと思われましたが、お客様がご用意された敷地は『最強』の敷地でした。市街化調整区域・地目農地・敷地と道路の間に水路あり・敷地内に国有地あり・・・かなり絶望的な状況です。(笑)

建築の設計者ではもはや対応不能です。やむなく、土地家屋調査士というプロを投入。諸々の手続きや国有地の払い下げなど、さらに時間はかかりましたが、設計や分離発注業務との同時進行でロスは小さく抑えられたと思います。

それまでの3件で重ねた、多くの小さなミスから得たノウハウもあり、工事は概ね順調でした。スタッフ渡部も、私と職人の板挟みになりながらも、本当に頑張ってくれました。いつも通り、分離発注物件のクオリティは高く、品質面・デザイン面とも、お客様にもご満足いただけたものと思います。そして、当社としても妥協の極めて少ない建築になりましたし、さらに多くのノウハウを得ることができました。

外張断熱、サーマスラブを採用した大きな吹き抜け、特注製作品のキッチン、大きなデスクスペースなど、見所も多くあります。後日、またホームページにアップロードした際に、詳しくご覧いただければと思います。

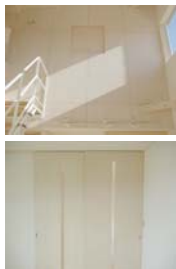
サーマスラブ

この住宅は、主暖房としてサーマエンジニアリング社の「サーマスラブ」を採用しました。原理は大変シンプルで、夜間電力で蓄熱する蓄熱体を土中に埋め、周囲の土ごと暖め、さらにその上部の土間コンクリートに蓄熱し、床上に放熱するものです。北東北、北海道にも多くの実績があり、先日の寒波の際に体験させていただきましたが、穏やかで必要十分な暖かさを感じました。床上に暖房機が存在しないのも、大きなメリットです。

1. 山砂をきれいに均します。
2. サーマスラブを並べていきます。
3. 真夏の炎天下の中、一区画完了。
4. 一枚ずつ電圧を測ります。×48枚。
5. 結線をして、土・砂利に埋めます。とても大変そうでしたが、無事完了。

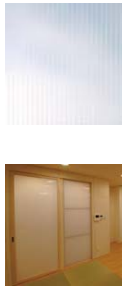


スタッフの日常・非日常 vol.07



こんにちは。スタッフの渡部です。12月吉日、晴れ。HOUSE-HKの特集に便乗して、ディテールを紹介いたします。唯一ほかが自由にできる部分です。窓回りなどの開口部は、シナ合板壁が突然スパッと切れて壁に四角い「穴」が開いたような感じにしました。「窓枠」が消えてシンプルさが際立ちます。壁紙だと、こうはできません。引戸などにも応用しています。壁と同じシナ合板。同じ「穴」。要素を絞って、あまりゴチャゴチャさせないことで空間が引き締まります。他にもいっぱいありますが、また別の機会に。見学した学生さんには好評でうれしかったです。でも、施工者の方には大変ご苦労をおかけします、これからも・・・

今月のマテリアル



ツインカーボ (AGC旭ガラス) 中空のポリカーボネート板です。断面はハシゴ状になっており、薄い2枚のポリカーボで構成されます。軽量で高強度。多くの建築家にも採用され、当社でも内部建具のガラスの代わりや手摺りの面板として、しばしば採用します。透明のほか、乳白やブルー、レッドなど、場所により使い分けする事で、面白い効果が期待できます。「HOUSE-HK」でも、透明と乳白を多くの建具に採用しています。軽量なため、大きな建具にも採用しやすく、子供のいる家庭でも安心です。

編集後記

最後までお読みいただきましてありがとうございます。今月のニュースレター、いかがでしたでしょうか？今日は12月11日。間もなく12月中旬から下旬へ。皆様は、年末年始へ突入の準備はお済みでしょうか？それらに大きく関わるご職業の方は、大変ですね。御苦勞様です。私も今年中に目処を付けたい事、年末に向けてやらなければならない事など、まだまだ満載という感じです。そう、恒例のアレもありますし・・・、移転や社名変更のご案内も一緒に。一年一年、本当に早いですね。季節を感じる間もなく過ぎ去ります。もう必死というか、夢中です。(笑) 何かと慌ただしい年の瀬ですが、皆様もお体に気を付けて頑張ってください。それでは、よいお年を。(早っ！) 来年も、「建築家の日常・非日常」をご愛顧いただけますよう、よろしくお願いたします。



今月の加藤一成
カトちゃん&サトちゃん。

IMPRESSION



NEWSもお知らせも特にありませんので(笑)、今回は、デザイン展の感想とさせていただきます。

去る12月10日、東京ミッドタウン・21_21デザインサイトにて、吉岡徳仁ディレクションによる、「セカンド・ネイチャー」展を見ました。タイトルからは、あまり内容が想像できなかったのですが、大変興味深いインスタレーションでした。

『記憶から生み出される第2の自然』モチーフは自然で、展示は全てが緻密で有機的。特に吉岡の空間は、浮遊感があり、遠近感も上下感も失いそうになる空間でした。会場となる建築の設計は安藤忠雄。その建築的空間とあいまって、小規模ながらも密度の濃い展覧会になっています。是非一つ一つの作品をじっくりと時間をかけてご覧いただきたいと思います。2009年1月18日まで。

そして、もう一つの展覧会は、ミッドタウンからも程近いTOTOのギャラリー間での、安藤忠雄建築展「挑戦-原点から-」こちらも小規模の展示ながら、目玉は『住吉の長屋』の原寸大展示。エントランスから、1階のリビング、中庭、中庭の向こうのダイニングキッチンと水回りガベニヤはありますが、忠実に再現されています。ベニヤとは言え、現場に行かなければ体験できない空間が体験できるのですから、貴重な機会です。2日連続、雨の住吉の長屋と晴れの住吉の長屋が体験できました。こちらは、12月20日まで。

Web Site

- Home トップページ
- Profile プロフィール
- Concept コンセプト
- Service 業務案内
- Works 設計事例
- Conference 無料相談

ニュースレター
「建築家の日常・非日常」
発行責任者：加藤 一成

株式会社 加藤一成建築設計事務所
TEL. 018-831-4315
FAX. 018-831-4316
HP. http://www.issei-design.com
BLOG. http://issei-design.cocolog-nifty.com/
MAIL. info@issei-design.com